

地球規模の職員室が日本にやってくる

- 1 週間の国際交流の場で、あなたは世界 70 カ国に友達の先生が出来るかも -

グローバルプロジェクト推進機構 (J E A R N)

畑井 克彦、和崎 宏、高木 洋子

katu@po.iijnet.or.jp、kotatsu@mement.or.jp、yoko@jearn.jp

http://www.jearn.jp/、http://2003japan.jp/

キーワード：国際交流、学校間交流、プロジェクト、連携、IT、ICT、ネットデイ、アフターネットデイ

世界最大の教育団体 (iEARN) の国際会議を日本で開催

昨年度の E スクエアプロジェクトから生まれた、国際交流を支援する団体である J E A R N が、兵庫県三田市で、2003 年 7 月 20 日～27 日、世界 70 カ国から 500 名以上が集いリアルに顔を会わせ国際会議を開く。国内からは 1000 名の参加を見込んでいる。地球の抱える課題を解決するプロジェクトの成果と次年度に向けての提案を行う。この取り組みは産官学民の連携で実現されている。

1 . J E A R N 誕生

1・1 これまでの国際交流学習

現在、学校教育の場には国際交流学習を妨げる数々のハードルがある。例えば、交流相手探しの問題、英語の問題、交流学習課題の問題等のハードルである。苦勞して相手校見つけるだけで精一杯で、自己紹介だけに終わってしまい、課題を深めることが出来なかった国際交流学習が散見される。今後、日本の子どもたちが世界の子どもたちと共に学びながら、国際的な感覚を育てられないということは、次世代を担う人材育成に大きく関わることである。

1・2 昨年度の e スクエアプロジェクト

グローバルプロジェクト推進機構 (J E A R N) は国際交流を推進するために、昨年度の e スクエアプロジェクトの支援を受けて誕生した。国際交流を総合的に支援するポータルサイトとしてシステムを構築した。

(http://www.jearn.jp/)

国際交流を支援するために、情報提供、情報交換の場の提供、ツールの提供を支援するプログラム開発を行った。

- (1) 情報提供システム・・・世界で動いているプロジェクトを日本語で紹介
- (2) ボランティア支援システム・・・ボランティアとの連携を支援するツールの提供と相互 (徳) 評価システム
- (3) 事例収集システム・・・具体的な交流事例を厳選し紹介
- (4) 翻訳チャット・掲示板システム・・・自動翻訳システムを組み込んだチャットと掲示板
- (5) FAQ システム・・・国際交流のヘルプデスク

これらの仕組みを活用することによって、自発しているボランティアとの連携を実現し、プロジェクト・ベースドな取り組みを企画出来ることを目指している。同時に、学校とボランティアを連携し企画するコーディネータの育成も狙っている。また、ボランティア個人に対して「ぼくんち」、プロジェクトに対して「バザール」と名づけて ml、BBS、HP を提供しており、効果をあげている。

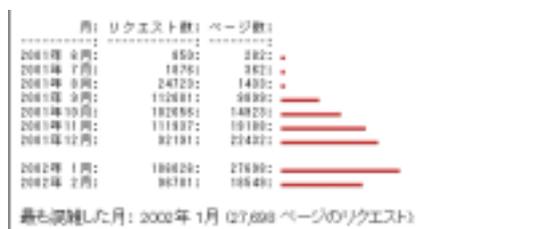


図1 平成13年度ホームページアクセス数



図2 平成14年度ホームページアクセス数

1・3 課題と目標

個々の国際交流実践情報を蓄積し共有することによって、これから国際交流を実践しようとする教師にとってスタートを切るきっかけになると考えている。したがって、学校の教師に J E A R N システム活用促進することと、国際交流は学校だけではなく地域やボランティアと連携することの大切さを、実践を通して広めていきたい。

また、海外から学校間交流の日本側窓口として、J E A R N の更なる活躍を目標としている。

2. 新たなる旅立ち

2・1 iEARN 国際会議誘致へ

世界最大の ICT を活用した教育団体である iEARN (100カ国、7,000校、700,000人加盟) は、地球の抱える課題を解決するため、常時110以上のプロジェクトが動いている。1年に1回その成果を、顔を会わせ、ひざをつき合わせて協議している。平成14年度はモスクワで第9回大会(平成13年度ケイプタウン、平成12年度北京)が開催された。参加者は70カ国から、450名以上あり、1週間の国際会議で人の絆が深まることを狙って開催されている。また、子どもたちの会議でもあるユース会議も100名程度が参加し同時開催している。

総合的な学習が義務教育で始まって2年目、高等学校が初年度という、教育の大きな変革点である2003年に、地球規模で多様な視点や考え方を体験できる場が持てることは大変大きな意味を持つと考え、この iEARN 国際会議を日本誘致することに取り組んだ。そして、第10回記念大会として、2003年7月20日(日)~27日(日)に兵庫県三田市、関西学院三田キャンパスをメイン会場として JEARN が主催することが決定した。

2・2 三田市での取り組み

過去の iEARN 国際会議では、開催国の人々との交流がほとんど無かったことが残念であった。そこで、日本と言う国を世界70カ国から来た人に正しく理解してもらうためにも、地元三田市の人々との連携がキーポイントと考えて iEARN 国際会議を企画した。

地域コミュニティの核として学校が有効に機能することは、阪神大震災で証明されている。そこで、地域ポテンシャルを引き出し、コミュニティの活性化を狙う活動としてネットデイに着目した。ネットデイとは学校の各教室にインターネットが使えるように情報コンセントを設置する活動である。ちょうど、三田市は地域イントラ整備事業でネットワーク基盤が完成しており、行政としてこのネットデイ活動で協働することの理解が得られた。三田市立藍小学校(450名参加)を皮切りに2月末現在リレー形式で3校実施し、市内全校に広がりつつある。この活動によって地域ボランティアの力が引き出され、コーディネータが育ちつつある。アフターネットデイが国際交流の出番であり、藍小学校では iEARN のプロジェクトが動き出している。

2・3 広がる支援の動き

兵庫県の井戸知事が三田市で開催される iEARN 国際会議の趣旨に共感され、積極的な支援を表明された。また、関西学院大学を始めとする多くの学校と、多くの企業の協力が得られ、産官学民の協働が具体的にいった事例といえるだろう。

3. そして未来へ

3・1 2003 iEARN 国際会議で世界70カ国とのネットワークを

2003 iEARN 国際会議 in Japan (第10回国際会議、第7回 Youth Summit) が2003年7月20日(日)~7月27日(日)兵庫県三田市で開催される。図3がそのホームページである。

参加申し込みについては、<http://2003japan.jp/regist/index.html> でオンライン登録可能である。



図3 2003 iEARN 国際会議のホームページ (<http://2003japan.jp/>)

3・2 未来の教室に向けて

教育は多様なチャネルが存在する必要がある。また、地球が抱える課題に子どもたちが直面することにより、自分たちの存在という哲学的な問題とも格闘出来るだろう。ICTを生かしたプロジェクトと、顔を会わせる会議を組み合わせた新たな国際交流のあり方を通して、JEARNというNPO団体は新たなステージに飛躍する。